



P.2 特集1

ホームページを活用してみませんか？

P.5 特集2

ひょうごボランティア基金新助成制度について

P.7 知っ得納得♪注目の中間支援活動「NPO・JR事故被害者支援ネット」

P.8 広がれ!ボランティアネットワーク
「物資運搬NPOと食品輸入業者のいい関係」

P.9 ボラセンの取り組み紹介します!「西脇市ボランティアセンター」

P.9 やってみよう☆情報発信～コラボネット～「『活動支援ナビ』ってなあに?」

P.10 プラザ通信



ホームページを活用してみませんか？

情報化社会が進み、IT（情報技術）やインターネット環境などのインフラ（社会基盤）も整備されてきました。今や情報を得るためにインターネットは無くしてはならないものとなっています。みなさんの団体では、どのようなホームページを作成していますか？それとも、これからつくるところでしょうか。

ひょうごボランティアプラザでは、県内のボランティア活動における情報ネットワークの基盤強化を旨とし、地域づくり活動情報システム「コラボネット」の運営、ボランティア活動の鮮度の高い情報を発信するメールマガジン「コラボNEWS」の発行などを実施してきました。また、情報を伝える距離や時間の問題を解消できる点でインターネットは注目されており、広い兵庫県の距離による情報格差を解消するため、プラザではインターネットを使った事業にも力を入れてきました。

今回の特集では、NPOがホームページを作成するときに必要な情報を盛りだくさんでお伝えしたいと思います。ホームページの作成は、活動に役立ついろんな効果があるようです。皆さんもこの記事を参考に初めてのホームページ作りや、長い間放っかけておいたホームページの更新にチャレンジしてみませんか？

ホームページを活用してみませんか？

— よりよいページを目ざして —

ひょうごんテック代表 吉野 太郎

はじめに



10年ほど前、私がNPOのパソコン・インターネット活用をすすめる活動を始めたころ、「なぜ高くてもんどうくさいパソコンを使うのか？」という声もよく聞きました。この間急速にパソコンは普及し、使えないと活動にこまる道具となりました。そして「とりあえずホームページは持ちたい」という団体が増えてきています。本稿では、これからホームページをつくってみようという団体の方、ホームページをつくったが、よりよいものになりたいという方を対象とします。

※「ホームページ」は、正式にはWebサイトとよばれます。この原稿ではより定着している「ホームページ」を用います。

なぜホームページをつくるの？

ホームページは団体の概要から日々の活動まで、伝えたいことを伝えたい人に届けるためのツールです。それだけなら、いままでやっている商店街のポスターや近所の学校でのチラシ配りの方が役立つこともあるでしょう。それに加えてホームページを使って情報を伝えると、読む側のハードルが低く

なり、より多くの伝えたい人に伝えられるようになります。「思わぬ遠方の人から問い合わせがあった」「講座にきた人の中でホームページで知った人が結構いた」ということが増えてきています。背景に、パソコンとブロードバンド（広帯域インターネット接続）の普及が進み、インターネットで情報を得る人が増えてきたということがあります。

ホームページはNPO活動の道具の一つで、万能ではありません。しかし、活動を広げる・つながりを増やす効果が大きいものです。道具に振り回されず、できる範囲でつくり始めてみませんか。今までの活動をよりよいものにする力をホームページは持っています。

団体の看板と情報公開

さて、ホームページの役割として、団体の看板の役割があります。団体名をどこかで目にした人が、詳しい活動内容を知りたい、連絡先を知りたい、場所を知りたいと思ったとき、インターネットの検索エンジンを頼りにする人が増えてきています。活動がきっかけでなくても、検索にひっかからないだけではない話です。団体の基礎情報がホームページに公開されてい

る方が望ましいでしょう。

さらに、NPO/市民活動団体としての情報公開をホームページを用いて行うことが増えています。設立趣旨を初め、会則、役員、事業計画・実績、予算・決算などを掲載し、公開性・透明性を確保しつつ社会に対する説明責任を果たすことは非常に重要です。事業を委託する側、助成する側なども、インターネットを使って調べることがよくあると聞きます。活動に関わりたい人にとっても知りたいことの一つでもあります。活動を充実させた上で、情報公開に力を入れることは団体の基礎力向上につながります。

ホームページ

制作前の準備



情報の整理

最初の一步として、何を伝えたいのか、何を伝える必要があるのかを考えます。団体設立の思いから来月のイベントのことまで、伝えたいことがたくさんあるでしょう。また団体の連絡先や場所などは伝える必要が高い情報です。伝えたい情報を整理していくことは、実は団体の現状を整理しなおすことにつながります。そのとき、誰に伝えたいかを話しあって整理すると、伝えたいことが絞られていきます。

余力があれば、スタッフが集まって一緒に考えてみるのもよいかもしれません。想像以上に大変かもしれませんが、ここで丁寧に力を注いでおくとあとで楽がでますし、団体内部で活動の見直しや意識の共有を行うことができます。

制作する技術のことは後で考えましょう。手間とお金をどの程度かけるかを決めると、おのずから方法は見えてきます。

担当を決める

ホームページをつくるためには制作担当の人を決める必要があります。確かに技術が必要ですが、ホームページに載せる情報の中身や意味をきちんと理解していることが重要です。内容がわかっている人は忙しすぎ、技術がわかかって頼める人は内容には詳しくない、よくそんなことがあります。両者が協力して制作する体制をつくるのが最初の一步です。当然、情報整理や制作に時間を割く覚悟も必要です。

※技術や必要な準備については、末尾の「道具について」の章をご覧ください。

つくりはじめよう



さて、情報もそろい制作開始です。ここでは、少し気をつけるとよりよくなるポイントを列挙していきます。

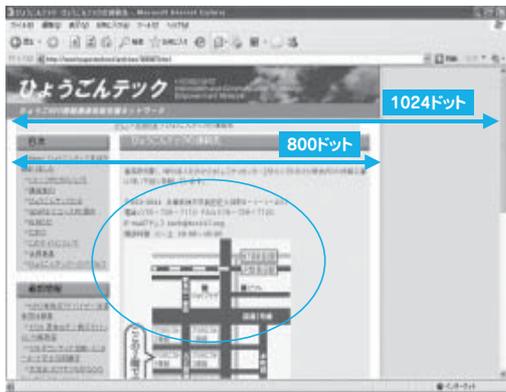
1 レイアウトに注意 —見る立場で考えよう—

ホームページを見るソフト（ブラウザと呼びます）では、左の上から右の下の方へ順番に内容を表示していきます。

そのため、メニューは上もしくは左にまとめた方がよいといわれています。また、最初に表示される範囲に、メニューも含めた大事な情報が表示されるようにするとよいでしょう。表紙に大きな写真を載せることを優先して、いま伝えたい最新情報が画面からはみ出してしまうことはありませんか。

2 画面のサイズ

同じく見る人の立場で考えると、パソコンで表示できる幅も考える必要が



図：ひょうごんテックのページ
地図のページにも基本情報をしっかり載せています。

あります。いま多くのパソコンでは横幅が1024ドット以上ありますが、ホームページは800ドット程度までにとどめるのが無難です。写真などの画像を載せる際も、縦横のサイズや、大きさ（キロバイト数）があまり大きくなりすぎないように注意しましょう。

3 基本情報をしっかり

団体の想いや活動内容だけでなく、団体名、住所、電話番号、メールアドレス、担当者名など団体の基礎の情報をしっかり掲載しましょう。団体の所在地の地図をプリントアウトして訪問する方が多いので、地図のページに電話番号もセットで載せるとよいでしょう。

4 デザインの統一を

リンクをたどりページをめくるたびにデザインが変わると、見る人には負担になります。制作するとき、サイト全体を共通のデザインで統一するように工夫しましょう。

団体のコンセプトがホームページの内容だけでなく、デザインに反映されるとよりよくなります。団体のロゴ、団体のイメージカラーなどを使うことも考えていきましょう。

5 伝えたいものから順番に

ホームページをつくる作業が思ったよりも多く、気が遠くなることもあるでしょう。骨組みをつくった後、すこしずつ足りていくことも考えましょう。その都度、「いま伝えたい」と思っている一番大事なことが漏れてい

ないだろうか？」ということを考えて見直しましょう。一部が「工事中」になつていたとしても、あまり気にしないで…。

6 継続しましょう

一度できたホームページ、無理のない範囲で更新をしていきましょう。思ったように更新が進まないときはどこかに無理があるはずですが、パソコンができるスタッフに頼むだけでなく、その人の作業時間も確保しましょう。これまで説明した機能からわかるように、継続すること、最新の情報を伝えることは大切です。

何年かに一度は全体の見直しを行い、それをきっかけに情報の再整理に取り組むのもよいでしょう。

もっと読まれる

ホームページに

定期的に更新しよう

せっかくつくったホームページ、より多くの人に見てもらうためのコツをいくつか紹介しましょう。リピーターを増やしたいときは、定期的な情報更新が不可欠です。週に一回でもかまいません。たとえば、「毎週月曜日に更新します」と書かれていれば、来週も見ようと思ったりしませんか。一番最初にアクセスされるページ（トップページ）に、どこを更新したか明示すると親切です。また、過去に更新した情報は大切な活動記録になっています。整理して見られるようになっていっても、トップページにアニメーシ

ョンや大きな画像が貼り付けてあると、リピーターには「邪魔」と思われて逆効果になることもあります。

リンクを張ろう・検索エンジンのごとも考えよう

関連する団体や中間支援団体などのホームページから団体のサイトへのリンクを張ってもらいましょう。また自分のホームページのリンク集も充実させましょう。ホームページにたどり着くために、

Google (<http://www.google.co.jp/>)、Yahoo (<http://www.yahoo.co.jp/>)

などの検索エンジンと呼ばれるサイトから調べる人が増えています。団体に関連するキーワードをタイトルやキーワード欄、文中に入れましょう。上記のリンクを張ることも、検索エンジンに表示される順位を上げるのに効果があります。なお、検索エンジンによっては登録依頼が必要なサイトもあります。

個人情報や著作権、肖像権にも注意を

名前や住所など、個人が特定できる情報の管理にはNPOも当然配慮しなければなりません。ホームページに掲載される情報は不特定多数の人に読まれることが前提です。団体のメンバー紹介をホームページに載せたり、活動写真をホームページに公開するときは必ず本人の許可を取る必要があります。掲載する内容の著作権にも気をつけましょう。印刷物での配布はかまわなくても、インターネット公開を認めていないものもあります。

アクセシビリティ

ホームページはさまざまな人がアクセスします。例えば、小さい文字やコントラストが弱いページは読みにくい方、パソコンを“呼気”とよばれるストローやVOC Aと呼ばれるボタン一つで操作する方、画面を目で見ずに画面の読み上げソフトを使って「耳で」見る方などです。

高齢者・障害者の方などさまざまな人が内容や機能にアクセスできることを「アクセシビリティ」と呼びます。昨年6月関連する日本工業規格（JIS X 8341）も策定されました。

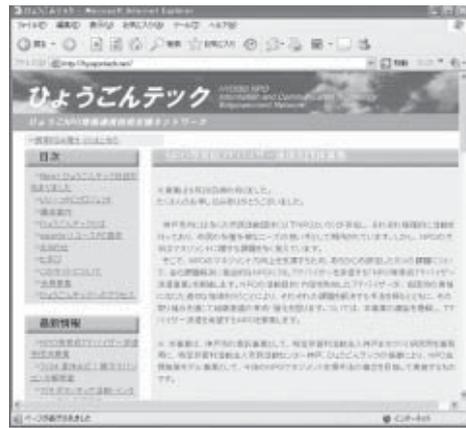
少しの配慮で、より「見やすい」ホームページに変えていくことができます。それぞれのページのタイトルを付けること、貼り付けている画像に説明文（altタグ）をつけること、リンクの説明によりわかりやすい表記を使うことなどに、まず気をつけてみましょう。

最近のトレンド・ブログの活用

最近、CMS（コンテンツ・マネジメントシステム）というものが流行しています。その中の、「ブログ」を紹介しましょう。使うソフトはブラウザのみ、掲示板のように自分の記事を足していくことができます。IDとパスワードを知っている人だけが書き足せるシステムで、他のブログとの連携（トラックバック）をとることができ、新しいツールとして注目を浴びています。

このブログを使って、ホームペー

ジをつくることもできます。工夫すれば、デザインや情報のレイアウトも整えることができます。ホームページビルダーなどのソフト操作を覚える手間を考えた場合、とりあえずブログを使ってホームページ作成、というのでも悪くないでしょう。とりあえず試すには無料のものもあります。



図：ひょうごんテックのページ
ブログをカスタマイズして活用しています

道具について

ホームページをつくるためには様々な道具や環境の準備が必要です。

制作する場所のパソコン・インターネット環境

制作する場所にインターネットに接続されたパソコンがあれば始められます。

ホームページを掲載するサーバー

ホームページの中身を世界中から見るができる場所に置く場所（サーバーと呼びます）を確保

する必要があります。インターネット接続を提供しているプロバイダーが同時に提供していることもありますし、無料で利用可能なものもあります。さらに、ホームページのアドレス（ドメイン名と呼びます）を自分の好きな名前で取得し利用することもできます。

ホームページを制作するソフト

ホームページを制作するソフトもさまざまなものがあります。ここでは、「IBM ホームページビルダー」をお勧めします。初心者から中級者までに対応しておりよく使われていて使いやすいソフトです。

ソフトを使うためのスキル

教科書を探す場合は、本屋さんで調べ自分にわかりやすいものを選びましょう。お勧めを何冊か下に紹介します。また、ホームページ作成講座があれば習いに行くこともできるでしょう。講座がきっかけになります。ホームページ作成スキルをもった人を探すといい方法もあります。案外身近にいい人がいるかもしれません。

なお、潤沢にお金があり時間が限られている場合には、ホームページ制作を請け負う団体・会社に依頼することもありますが、本稿では「自分でつくる」ことを念頭に置いています。

役立つ

ほんの看板のつもりでつくったホームページから、思わぬところから問い合わせが入ることがあります。ホームページをつくるために話し合いをすると、自分の団体のことで知らないことがわかったり、スタッフ・ボランティアによって団体への想いが多様であることに気づいたりします。ホームページはただの「道具」です。しかし、その道具を活用することで、内外にコミュニケーションが広がり、それぞれのよい活動につながるきっかけをつくることができます。よりよいホームページのつくり方・使い方を考えるきっかけになれば幸いです。

ひょうごんテックとは

ひょうごんテックはHYOGON(ひょうご市民活動協議会)の技術支援ワーキンググループを母体に、2004年6月設立された、NPOのパソコン支援を行う団体です。リユース(中古)パソコンの提供、パソコンのメンテナンス、講座、ホームページ制作(特にアクセシビリティに配慮したもの)、情報通信技術(ICT)支援を行う人や団体のネットワーク育成などの活動を行っています。

ホームページ <http://hyogontech.net/>
TEL 078-739-7110

参考書：『超図解 ホームページビルダーバージョン9 総合編』
Xmedia 1480円
『全部無料でつくるはじめてのブログ』
翔泳社 1480円+税

ひょうごごボランティア基金 新助成制度について

ひょうごボランティアプラザでは、

県域における県民ボランティア活動の
活発な展開を支援するため、「ひょう
ごボランティア基金」により、NPO
活動に対して助成を行っています。

特に、幅広い分野の活動団体の自立
的な運営の基盤強化を目的として、今
年度新たに設けた3つの助成事業の応
募状況とその傾向、選考結果等につい
てご紹介します。

チャレンジ事業助成



この助成は、中間支援機能を有する
組織から支援を受けながら、地域の課
題解決に向けて、斬新性かつ継続性が
あり、社会的ニーズが高く、事業効果
が広く県民に及ぶ事業に対し、新たに
取り組む場合、もしくは既に取り組ん
でいる場合に必要な支援を行うことに
より、事業の拡大・発展を図ることを

目的とする事業です。

今年度は、36件の応募があり、約
3分の1が福祉系で、その他、まち
おこし・環境・芸術・スポーツ等、
事業分野は多岐にわたっています。

申請内容としては、時宜を得た優
れた企画もありましたが、全体とし
ては、一過性のイベント事業の開催
経費の不足分を補てんしようとする
ものが多く、この事業の本来の趣旨
である、継続性や発展性といった点
で、疑問の残るものが多数見受けら
れたことが残念です。

予算的な縛りもあり、最終的には
7倍を超える高い競争率となりまし
た。

このため選考では、優劣をつける
上で、事業内容はもとより、予算積
算の妥当性等、事務的な能力も評価
の重要なポイントとなりました。

	助成団体名	助成事業名	助成額 (万円)
1	(特) アップストリーム障がい者支援センター	小規模多機能なコミュニティレストランの設立	100
2	(特) 市民事務局かわにし	地域における緊急課題/社会的ニーズに“すぐに役立つ”窓口事業～JR福知山線列車事故被害者(負傷者)支援窓口とつどい～	100
3	(特) 大名草	田舎定住お試し体験事業	100
4	(特) 愛逢	現在週3日の配食サービス(夕食)を毎日型(月～土)に拡大する	50
5	農・都共生ネットこうべ	学校ビオトープ支援事業(かんさつ会、ため池絵本およびエコツアー)	50
合計			400

第1年次の助成団体が決定しました。

	助成団体名	助成事業名
1	(特) たんばぐみ	ボランティアと市民ファンドによる古民家再生事業
2	(特) 宝塚NPOセンター	公共交通へのモーダルシフトを通じた環境配慮生活啓発事業
3	(特) ブレーンヒューマニティー	不登校児童等の在宅学習支援のための教材作成事業
4	(特) シンフォニー	阪神なぎさ回廊「自然・人」交流復活推進事業
5	ひょうごんテック	コミュニティWebサイト構築プロジェクト
6	(特) ドラマ丸亀奔流で町おこしをする会	三田歴史観光の環境整備と保全
7	三田を知る会	団塊世代・いきいき楽農プロジェクト
8	(特) Art Produce & Management Network	兵庫子ども小劇場
9	きららの森	猪名川の自然を食べる・・・自然教育プロジェクト

行政・NPO協働事業助成
(NPO提案型)



※ 助成金額：各団体30万円

中間支援活動助成



この助成は、中間支援活動における、「ネットワークの構築」、「調査研究」、「講座等の開設」及び「情報提供・相談（経営指導）」等の機能強化を支援することを通じて、県民ボランティア活動全体の底上げを図ることを目的とする事業です。

中間支援活動にはふさわしくない、特定の個人・団体を対象とした事業を実施しようとする（むしろチャレンジ事業助成に該当する）ものが散見されました。

この助成事業の趣旨を十分にお伝えできなかったことを反省していますが、今後は、申請にあたっては、募集リーフレットを検討いただき、不明な点は当プラザまでお問い合わせいただけるようお願いしたいと考えます。

応募は14件あり、倍率は約3倍でした。中間支援組織として実績がある著名な団体が選ばれましたが、将来のボランティア活動の裾野の拡大には、中間支援組織の質的充実はもとより量的な増加も不可欠であるため、新たな中間支援組織の活躍を大いに期待しています。

	助成団体名	助成事業名	助成額(万円)
1	(特)コムサロン21	中間支援機能パワーアップ(相談機能の強化)	100
2	(特)神戸まちづくり研究所	市街地における商業団体・まちづくり団体・NPOのネットワーク促進事業	100
3	(特)市民活動センター神戸	NPOの政策提言力の開発にかかる調査研究とセミナー事業	100
4	(特)コミュニティ・サポートセンター神戸	企業のCSRと勤労者の地域活動・推進プロジェクト	100
5	(特)宝塚NPOセンター	NPO法人のキャパシティ・ビルディングを実現する会計相談事業	100
合 計			500

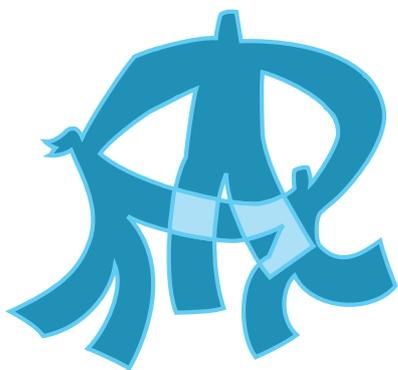
行政・NPO協働事業助成 (行政提案型)



この助成は、兵庫県が、地域の課題解決又は活性化を目的として提案する事業に、NPO法人等が独自のアイデアを付加し、県との新たな協働のもと、試験的实施を通じて、事業成果の向上及び事業の効率化を図ることを目的とする事業です。

行政からは、昨今マスコミを賑わせているような社会的な課題に係る事業提案がありました。ある程度の専門性が求められるためか、他の助成と比較すると応募が少なかったようです。

この事業の特徴は、次年度以降に、行政において対象事業の予算化に努めることです。したがって、NPOには、行政に無い斬新なアイデアや、既存概念にとらわれない柔軟な発想による積極的な事業実施と的確な効果判定を期待しています。



	助成団体名 (行政協働先)	助成事業名 (団体提案事業名)	助成額(万円)
1	ウィメンズネット・こうべ (健康生活部少子局児童課)	シェルター入居者自立支援事業	30
2	姫新線ふれあい菜の花プロジェクト (県土整備部県土企画局交通政策担当)	JR姫新線を活かした県民交流事業 (姫新線ふれあい菜の花プロジェクト)	30
3	(特)ひょうご新林家21 (県土整備部住宅復興局住宅計画課)	NPO法人等による住宅リフォーム支援事業 (信頼のリフォームセミナー：住宅リフォーム相談とセミナー)	30
4	ワークシェア (県土整備部住宅復興局復興推進課)	SCS(高齢世帯生活援助員)等に対する実践的研修事業 (高齢世帯生活援助員研修事業)	30
5	(特)ひょうご被害者支援センター (警察本部警務部警務課被害者対策室)	犯罪被害者に対する直接支援要員の養成	30
合 計			150

NPOのためのNPO、これが中間支援組織です。このコーナーでは、県内の中間支援組織が展開する特色ある活動をご紹介します。

NPO・JR事故被害者支援ネット

～いざというときのネットワーク形成～

NPO・JR事故被害者支援ネットとは

平成17年4月25日、死者107名を出したJR福知山線脱線事故が起きました。この惨禍が被害者や家族に及ぼした衝撃と苦悩は、阪神・淡路大震災のそれと似かよっています。被災者と同じ目線で生活再建支援やこころのケアに取り組むことの重要性を知った神戸・阪神地域のNPOが立ち上がり、「NPO・JR事故被害者支援ネット（以下、「支援ネット」という。）」を結成しました。

支援ネットのメンバーを構成する7つのNPOは（下表参照）、事業内容や活動地域が異なるため、全団体に、日常的につながりがあったわけではありませんが、ミッションやサービスの共通性、さらに阪神NPOサミット等を通じて生まれた信頼性等が支援ネットの迅速な立ち上げに役立ちました。

発足当初は、病院への通院介助や家事支援といった「生活の支援」が多いと予測していましたが、被害者が自らの体験や悩みを語り合う「場」を設けてほしいという要望が強かったことから、11月末までに伊丹市、宝塚市等で計3回「ひろば」を開催しました。

一方で、被害者と家族の生活再建に関わるニーズの変遷と支援のあり方を組織的に調査研究するため、(財)21世紀ヒューマンケア研究機構が公募した「ヒューマンケア実践研究」に応募し、採択されました。

※(財)21世紀ヒューマンケア研究機構がNPO法人等の実践的研究を支援するために設けた助成金制度です。

複数のNPOが関わる支援ネット

支援ネットを構成する7つのNPOは、それぞれの組織で蓄積された専門性をもとに役割を分担しています。

① 生活支援

宅老所やデイサービス、ホームヘルプサービス等の生活支援の専門性を有する4つのNPOは、経験豊富で信頼できる人材を抱え、被害者の方からニーズがあった際にすぐに動ける態勢を整える、いわば「実働部隊」の役割を担っています。

② 被害者支援

被害者支援に関する専門的知識を有するNPOが、この支援ネット全体のスーパーバイザー的役割を担っています。

③ 中間支援機能

2つの中間支援NPOは、活動するのに不可欠な資金の調達、世話人会実施の際のNPO間の調整、マスコミ対応等、支援ネットの活動を支える事務局の役割を担っています。

支援ネットの特徴は、複数の専門性が異なるNPOが関わることにより、①ワンストップで情報提供や具体的な支援が可能になること、②開催している「ひろば」で、被害者、その家族、地域の住民、支援者等、立場が違う様々な人が立場にとらわれずに話し、聞くことができる、③事故での心理的なショックから電車を利用することが難しい被害者に対応するために出前で「ひろば」を開催する、といった柔軟な運営が可能であることが挙げられます。また、本年末までと期間を限定して活動を開始したこ

ネットワークへの期待

とで、各NPOの目標が設定しやすくなったことも見逃せません。

鉄道事故の被害者は沿線に点散するため、生活再建への支援で目が届かない恐れがあります。所掌や行政境界にとらわれないNPOの活動が期待されるゆえんです。しかし、被害者とその家族が抱える問題は多様なので、個々のNPOでは対応できないことも少なくありません。

「専門性の異なるNPOが協働して支援ネットに関わることにより、お互いの専門分野の違いを認識すると同時に、自組織のできること、できないことを適切に把握した上で、ニーズを的確に対処する力が不可欠であることを改めて認識しました」と代表の桑山さんは振り返ります。

支援ネットはあくまで緊急時の臨時の組織で、本来の業務に専念するため間もなく解散します。しかし、ここで立ち上がった顔のみえるネットワークは、普段の活動に活かされ、次の飛躍の基礎になりうると考えられます。災害が避けられない以上、市民の連帯によってつくられる、素早く、柔軟に動けるネットワークの役割がますます重要になるでしょう。

NPO・JR事故被害者支援ネット

○代表 桑山信子
 〈(特) WACゆずり葉〉
 ○事務局 (特) シンフォニー
 〒660-0826
 尼崎市北城内88-2-106
 TEL 06-6412-8446
 FAX 06-4868-3396
 URL <http://jasnet.npos.biz>

○構成NPO(五十音順)
 (特)愛達【尼崎市】、キララ【(特)セクシュアリティ・カウンセリング神戸】【西宮市】、
 (特)コミュニティ・サポートセンター神戸【神戸市】、(特)シンフォニー【尼崎市】、
 (特)宅老所光明の家【宝塚市】、(特)ひょうご被害者支援センター【神戸市】、(特)WACゆずり葉【尼崎市】

余った食べ物を預かり、必要とする ところへ届ける

「フードバンク関西」

●提供された食品はその日に受け取り団体へ

スーパーマーケット裏側の搬入口から中に入ると、賞味期限が間近になった食品や包装が破れて売り物にならない生活雑貨が集められています。その日の配達先の状況に合わせて仕分けして、車に積み込み、ホームレスの生活を支援するNPOや児童養護施設、母子緊急生活支援施設等、現在18ヶ所へ配達しています。



●フードバンクとは

食品関連業者・団体・個人から余剰食糧の提供を受け、福祉団体にそれらの食料を分配するフードバンクは、アメリカでは200以上あり、50,000に及ぶ地域の団体の支援を行うボランティア活動です。日本では、フードバンク関西の他に東京にフードバンク活動を行う団体があります。

今日、まだ食べ物としての役割を担えるにもかかわらず大量の食品が廃棄・焼却されています。また、社会福祉法人や非営利活動法人の多くは、食材調達のための経費の捻出が困難になってきています。

フードバンク関西は、この両者を結び、週6日、1日80〜150kg、1ヶ月平均4tの余った食料を、必要としているところに届けています。

●無償で提供を受け、無償で分配

ボランティアは自分の車を使って食品を引

き取り配達していますが、活動を継続するためには、資金が必要です。近頃ようやくガソリン代を払えるようになりました。資金面でのバックアップがあり、ボランティアが増えれば、将来的には各都市にフードバンクの支部がつくられ倉庫を管理し、その町の生活弱者を支援する団体や施設にそれらを分配することが出来るのです。

●連携から生まれた新しいつながり

あるスーパーでは、2ヶ月に1回、作業所生産品バザーが開かれています。地域との交流の方法を模索していたスーパーと、販路に困っていた身障者作業所をフードバンク関西が結び付けて始まりました。

企業からフードバンク関西を経て受け取り団体へ至っていた善意の流れが、今や相互交流へと形を変えて、地域住民をも巻き込んだ大きな渦となつていきます。

フードバンク関西は、お互いに助け合い、全ての人が心豊かな市民生活を楽しむ社会の実現に貢献したいと願っています。



特定非営利活動法人 フードバンク関西

〒665-0985 尼崎市南清水37-14
TEL 06-6496-4077
<http://foodbankkansai.web.infoseek.co.jp>

物資運搬NPOと食品輸入業者のいい関係

もったいなく、そして残念な思いを解消
「株式会社ジャパン・フード・サービス」

「フードバンク関西」との関係についてお話を伺いました。

Q どのような経緯で連携が始まったのですか？

A フードバンク関西より送付されてきたPR誌を基に社内でもフードバンク関西の活動内容を検討した結果、我が社も協力できるのではないかとという結論に達しました。直接詳しい活動内容の説明を受け、その活動趣旨に賛同できたと推し進めることになりました。

Q 「フードバンク関西」と連携することによるメリットは？

A 私どもが提供している食品は、海外より加工輸入されたもので検疫検査の対象となります。冷凍状態で輸入されたもののごく一部（アイテムに対しケース）を解凍し検査します。一旦解凍して再冷凍すると商品としては若干劣化する恐れがあるために廃棄処分していましたが、再冷凍せず良質の食品の状態を無料で提供しています。

今まで当社が自信と誇りを込めた商品を廃棄することはもったいなくそして残念な思いでしたが、フードバンク関西からの協働のお誘いにより解消し、多くの支援を必要とされる方のお役に立てることは大変喜ばしいことです。

Q どのような連携（関係）が望まれていますか？

A フードバンク関西の役割がもっと社会に理解されることを望みます。当社としても他の商品でまだまだ協働、協力できる部分が出てくると思います。そしてこのような活動の輪が他の企業にも広がり、もっと大きな輪になっていくことを望んでおります。食品に限らず日用品・雑貨品等、利用価値があるにもかかわらず「ゴミ」として捨てられていくことのもったいなさを多くの人が知ることが大切だと思います。

「企業としてそういったPR活動をフードバンクと一緒に連携できればと考えています。」

ボラセン 紹介します の取り組み



今回は
【西脇市】

子どもたちが考えた防災福祉提案事業 「防災福祉プロジェクト」

■台風23号の教訓をこれからのまちづくりへ

兵庫県全域に猛威を振るった台風23号は、西脇市にも甚大な被害を与えました。その経験を教訓に、日常から地域の人々が支え合い、災害が起きても強い地域をつくる「防災福祉のまちづくり」をめざして、西脇市と黒田庄町のボランティアセンターは「防災福祉プロジェクト」を実施しました。

■子どもたちが防災福祉を考える

このプロジェクトで特徴的な点は、中学生・高校生がまち歩きや被災者へのインタビューを通じ、被災地での学びの中から、いのちと暮らしの安全のために支えあう方法や提案をまとめ、提言をしたことです。しめくりの5回目は県内外の人たちも含め45人余りが参加して「身近な発見!!「へえ〜」」をテーマに「防災福祉ウォーク in 西脇」を実施しました。今まで学んできた生徒が案内役となりコースと主な拠点を記入した地図を持参し、身

まちあるきの内容をまとめています

近な「へえ〜」を発見しに街に繰り出しました。途中、被災地の公民館、被災した店舗、被災者を受け入れたホテルなどを訪ね、当時の避難状況や被災体験などの生々しい話を聞き、被害の大きさとともに災害時の支え合いの大切さを認識しました。そしてその発見や気づきをもとに、防災マップ作りに取りくみました。



まちを歩いて被災したときのお話をききました

■子どもたちの取り組みが地域づくりに反映する

今後、このプロジェクトでの学びから生まれた提言が、新市社協誕生を記念して開催されたボランティアのついで発表され、その後も様々な場での報告が予定されています。子どもたちも地域を変える主体であることを証明するこの取り組みに注目です!

※実施当時は市町合併前の西脇市ボランティアセンターと黒田庄町ボランティアセンターの両者の主催で行いました。

西脇市ボランティアセンター

〒677-0053 西脇市和布町277番地の1
西脇市総合福祉センター内

やってみよう☆情報発信 コラボネット

第3回 『活動支援ナビ』ってなあに?



第1回でご案内した、「HOW TO イベント発信」の入力画面が、いつの間にか少し変わっていませんか?!そう、「カテゴリー」と「種別」が増えているのです!イベント発信の方法は以前とほとんど変わりはありませんので、いつものように入力していただけます。この「カテゴリー」と「種別」が増えたことで、一体何ができるのでしょうか。例えば…

- ★ボランティアやスタッフを探したいなあ
☆うちにはこんな人材がいるので派遣しますよ!
- ★セミナーをしたいけど、この地域でどこかないかなあ
☆うちにはこんな会議室がありますよ!
- こういった★募集の情報も☆支援の情報も、まとめて登録していただけます。ぜひ一度登録してみてください!

ひょうごボランティア活動支援ナビサイトとは…

皆さまの地域づくり活動の情報に加え、皆さまの活動を支援する“ヒト”や“資金”等の情報を発信するサイトです。行政機関や企業、公益団体等の資金募集や資材提供等の活動支援情報のみならず、講座や交流会等の皆さまが地域を支える情報、また皆さまが活動を行う際に得たノウハウ情報等も掲載しています。ぜひ、このサイトを利用していただくとともに、各種情報の登録をしていただき、ともに充実したサイトへと成長させていきたいと願っています。

ひょうごボランティアプラザでは、子育てや高齢者の支援、緑化活動、交流行事など、暮らしやすい地域をめざして、県民のみなさん同士が助け合うボランティアな活動を、『地域づくり活動情報システム～コラボネット～』で発信しています。

地域づくり活動情報システム(コラボネット)とは…

県内の「地域づくり活動」に関する情報を、インターネットを通じて広く発信し、情報の共有化、さらには団体相互の連携、交流のきっかけづくりを支援することを目的とした情報システムです。コラボネットを利用して情報発信を希望される方は、ID(活動団体番号)とパスワードを発行しますのでプラザまでお問い合わせください。

(TEL) 078-360-8845 (FAX) 078-360-8848 (コラボネット専用E-mail) info@hyogo-vplaza.jp

地域づくり活動情報システム
コラボネット
www.hyogo-vplaza.jp

（ （ （ （ プ ラ ザ 通 信 ） ） ） ）

平成17年4月～11月

寄附をいただきました

ひょうごボランティア基金へのご寄附、ありがとうございました。
皆様からいただいたご厚志については、ボランティア活動支援や友愛事業に活用させていただいています。

ボランティア活動支援事業へ寄附いただいた団体・個人
(五十音順・敬称略)

氏名・団体名

家島町役場
NTT労働組合 中央執行委員長 森嶋正治
関西スーパーマーケット
三宮センター街1丁目商店街振興組合
三宮センター街2丁目商店街振興組合
三宮センター街3丁目商店街振興組合
社会福祉大会募金
美容協会灘支部教育部
兵庫県茶道協会
兵庫県(善意の寄附金)
兵庫県立神戸高等学校 自治会・厚生委員会・JRC部
ふれあい食事の会えんどう豆
ふれあいの祭典募金
窓口募金(半期分)

友愛事業へ寄附いただいた団体・個人
(五十音順・敬称略)

氏名・団体名

黒田賢一
財団法人 神戸新聞厚生事業団
食博覧会実行委員会
手嶋克樹
無名倶楽部

年末年始
プラザ休館のお知らせ

12月28日(水)～1月4日(水)の間、プラザは全施設を休館とさせていただきます。

平成17年度ひょうごボランティア基金県民ボランティア活動助成(第2次募集)

エントリー(事前申込)受付開始!

この助成事業は、県民の地域活動への主体的な参加を促し、ボランティア活動の裾野を拡大するとともに、県民自らが行うボランティア活動の安定的かつ継続的な発展を図ることを目的として実施します。

※チラシは、当プラザのホームページからダウンロードすることができます。

- 対象団体 兵庫県内のボランティアグループ・団体、NPO法人等
- 申請条件 17年度に県内で主としてボランティア活動を12日以上行う5人以上のグループ・団体(その他要件あり)
※17年7月1日～9月9日の期間中に既にエントリー申請し受理されたグループ・団体を除きます。
- 助成額 1グループ・団体あたり上限3万円(対象経費の1/2助成)
※エントリー(事前申込)受理数により助成額が決定します。
- エントリー期間 平成17年12月12日(月)～平成18年1月13日(金)(年末年始除く)
- エントリーについて 助成金の交付を受ける場合は、必ずエントリーが必要です。各市区郡町社会福祉協議会に備えている所定のエントリー書に必要事項を記入の上、県内の活動している地域の市区郡町社会福祉協議会に届け出してください。
- 問い合わせ先 活動している地域の市区郡町社会福祉協議会もしくはひょうごボランティアプラザにお問い合わせください。

今年度も開催!参加者募集中です!

6th ひょうごボランティアスクエア!

- と き 平成18年1月15日(日) 10:00～17:30
- ばしょ JR西ノ宮駅前 フレンテ西宮5階フレンテホール
フレンテ西宮4階フレンテギャラリー

阪神・淡路大震災を契機に盛り上がったボランティア活動を定着させ、さらに広げていくために、地域・分野・セクターを越えて、交流・情報交換を図ることを目的に開催します。

●開催内容

ボランティア・市民活動元気アップアワード(フレンテホール)

10:00～12:00

県内のボランティア・市民活動団体の優秀な企画や素晴らしい活動実績を審査し、賞を授与します。参加者の皆さんも投票できます。今年のグランプリはどの団体に!

(審査発表 17:10～17:30)

ひょうごボランティア・市民活動フォーラム(フレンテホール)

～市民連携による「市民事業」の可能性を探る～ 13:20～17:10

今年のテーマは「市民事業」です。地域の課題をどうすれば市民の力で解決できるのか、地域とNPOがどうやって連携して活動していくのか、先進的な事例を聞きながらともに考えてみませんか?

地域活動パネル展(フレンテギャラリー)

10:00～17:00

1月11日(水)～16日(月)にかけて、県内各地の地域活動の様子や、震災当時のボランティア活動や地域での防災の取り組みなどのパネル展を開催します。

お問い合わせ先

ひょうごボランティアプラザ(担当:阪上)
TEL:078-360-8845
FAX:078-360-8848
http://www.hyogo-vplaza.jp
E-mail:vplaza@hyogo-wel.or.jp

